

「新たな時代の人づくり推進方針（最終案）」の概要

1 策定の趣旨

将来の予測が困難な中、本県の将来を担い、未来を切り拓いていく若者たちが、困難な課題に果敢に挑戦し、乗り越えていく力を備えることができるよう、市町、学校、地域、関係する施設や団体、企業等と連携・協働しながら、新たな時代に対応した人づくりに取り組む。

2 対象期間

令和3年度（2021年度）から当分の間

3 新たな時代を担う人材像

ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い「志」と「行動力」をもって、地域や社会の課題を自ら発見、他者と協働しながら解決し、新たな価値を創造できる人材

4 人づくり推進の基本姿勢

- ▶ 一人ひとりの能力や可能性を伸ばす
- ▶ 全ての子ども・若者に新たな学びと成長のチャンスを提供する
- ▶ 国公立・私立学校や関係施設等と一体的に取り組む
- ▶ 学校や行政、地域、企業、団体等が連携してチャレンジを応援する

5 人づくりの現状と課題

子ども・若者の減少、児童生徒の学力、高校卒業者の進学・就職状況 等

6 新たな時代に向けた人づくりの推進

【基本方針】

- ▶ 年齢や性別、障害の有無、経済状態等にかかわらず、学びへの意欲を有する子ども・若者にあまねく必要な教育を提供し、子ども・若者らが最大限に能力を発揮して、各々の「志」を育み、行動していけるよう、国公立・私立や施設の種別等による区別なく皆が一体となって、新たな時代に向けた人づくりを推進。
- ▶ 「取組の視点」に基づいて、人づくり全体を体系的かつ中長期的な観点から俯瞰しながらその具体化を検討し、相互のつながりと実効性のある諸施策を構築するとともに、学校や行政、地域、企業、団体等の連携の下、効果的かつ計画的に実施。

【取組の視点】

(1) 生涯にわたる人づくりの基礎を培う

① 幼児教育・保育の充実

- ・ 乳幼児期における教育及び保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、日々の実践の中で、非認知能力や自己肯定感を育むことが重要
- ・ 生命や自然を大切にする心や思いやり、感性、ふるさとへの愛着を育む取組、好奇心、探究心を伸ばす取組等を推進

② 学びの接続と一貫した人づくり

- ・ 長期的な視点による「志」実現への一貫した支援や幼保小連携を推進

(2) ふるさと山口への誇りと愛着を高める

- ・ 郷土の歴史や伝統・文化、先人たちの「志」と「行動力」についての学習など、学校教育や社会教育を充実
- ・ 山口県で活躍する大人や先輩との「ナナメの関係」から刺激を受け合う「憧れの連鎖」を創出する取組を推進

(3) 新たな価値を創造する力を育む

① 地域や社会が抱える課題を発見し、他者と協働して解決する力の育成

- ・ 「志」に基づく課題を見つけ「行動力」を育み、人生の縮図体験となるPBLを推進
- ・ 発達段階に応じた課題発見・解決能力の育成、ノウハウの蓄積・共有が重要
- ・ 教職員が課題解決プロセスを児童生徒と共有し、共に楽しむ姿勢が重要

② 自らキャリアを構築する力の育成

- ・ 企業との連携による、社会と密接に結び付いたプログラムの構築が重要
- ・ 児童生徒の成長の記録を小学校から高校まで共有することが重要
- ・ 学び続けることの習慣化、生涯を通じて切れ目のない質の高い学びの場の整備、新たな価値を創造するためのアイデアを生み出す環境づくりが重要

③ グローバルな視野の育成

- ・ ICTを活用して、世界と交流する機会が当たり前になる環境づくりを推進
- ・ 世界と自分が結び付いていると実感できる体験活動を推進

④ AI等新しい技術を活用する力の育成

- ・ デジタルを使った物事の考え方、データを処理し活用する力、デザインする力の育成と合わせ、人間だからこそその豊かな情操を育成することが重要
- ・ プログラミング教育は、児童生徒が試行錯誤しながら学ぶことが重要
- ・ 山口大学と小・中・高校が連携した知財創造教育を推進
- ・ データサイエンティストや新ビジネス等を創造するデジタル人材の育成を推進
- ・ 幼児期から、試行錯誤しながらモノを創るクリエイティブな体験活動を推進

(4) 誰にも等しくチャレンジの機会を創る

- ① 障害のある幼児児童生徒
 - ・ 子どもの長所や得意なことにスポットライトを当て、一人ひとりの個性や意欲、可能性を高め、夢や思いを実現できる学びや指導・支援の提供が重要
 - ・ テクノロジーを活用して、通学が困難な児童生徒が友達とともに学ぶことができる環境の整備や、個別最適化した学習等を推進
- ② 家庭環境等に困難を有する幼児児童生徒
 - ・ 家庭環境等にかかわらず、教育の機会均等が保障されるよう、きめ細かな対応を図ることが重要
- ③ その他特別な支援を必要とする児童生徒
 - ・ 専門的な相談・支援機能を充実するとともに、不登校の状況にあっても、義務教育を実質的に保障する仕組みが重要
- ④ 「学び直し」を希望する若者
 - ・ 再チャレンジができるよう、多様な「学び直し」の機会を提供することが重要

(5) 地域や時代のニーズに対応し、チャレンジのための環境を整える

- ① 児童生徒の可能性を伸ばし、「志」を叶える新たな学びの場の創造
 - ・ 県内で学ぶことにより、若者の定着につながるよう、児童生徒の希望に沿った教育環境の充実が重要
 - ・ 公立学校と私立学校の連携を図りながら特色ある教育活動を進めるとともに、より高いレベルでの学力向上を目指す子どもたちが県内で切磋琢磨する機会の確保等が重要
 - ・ 例えば若手医師やデジタル人材など、政策課題への対応に向けて必要な人材を確保するため、子どもたちへの働きかけや育成環境の整備が重要
- ② 教育のICT化の推進
 - ・ ICTを活用し、県内学校の合同授業や海外の学校と意見交換する取組等を推進
 - ・ 臨時休校等の緊急時においても、オンライン学習等により、学びを保障できる環境の整備を推進
 - ・ 関係者の共通理解に向けた気運の醸成や情報発信を推進
- ③ 社会の変化に対応した専門高校の充実
 - ・ 時代の変化に対応した知識・技術習得のため、実習施設・設備等の整備を推進
- ④ コミュニティ・スクールの深化
 - ・ 保護者や地域住民、教職員が「楽しい」と感じて取り組むことができる仕組みづくりが重要
 - ・ 児童生徒等が「自分たちがここを変えた」と実感できる活動の積み重ねが重要
 - ・ ビジョンを共有し、地域と学校がさらに連携する仕組みづくりが重要

⑤ 県内高等教育機関における機能分担と連携の推進

- ・ 県内大学等が産学公と連携し、教育・研究機能等の分担や連携・協働を推進
- ・ PBLの実施や共同研究など、産業界や自治体と連携した取組を推進
- ・ 地域や企業が必要とする人材の教育プログラムとのマッチングを図りながら、リカレント教育を促進することが重要
- ・ 県立大学については、学部・学科の見直しも含め、県内大学等との機能分担や連携、担うべき人材育成・研究拠点機能のあり方などについて検討

(6) 新たな人づくりの推進体制を築く

① 幼稚園教諭・保育士等の資質能力の向上、確保・育成

- ・ 専門性向上に向けた研修の充実や職場環境の整備、外部評価の実施等が重要
- ・ 幼児教育に関する調査研究や研修等を担うセンター的機能を構築
- ・ 県内大学等での人材の育成と県内定着を促進
- ・ 特別支援等への対応や新たな教育手法の実施に向けては、より専門性の高い幼稚園教諭の育成が重要

② 教職員の資質能力の向上

- ・ 学びのスタイルの変化に伴い、教職員にはファシリテーターの役割が重要
- ・ 教育方針等を共有し、保護者等が当事者意識をもって教育に関わることが重要
- ・ 管理職のマネジメント力の向上に向けた研修の充実が重要

③ 新たな学びを先導する体制整備

- ・ 「やまぐち教育先導研究室 (YELL)」を中心に、ICTを積極的に活用し、新たな学びの視点を取り入れた教育プログラムの研究・開発を推進
- ・ 本県ならではの教育のあり方について研究し、実践につなげることが重要

④ 推進方針に基づく取組の推進と検証

- ・ 取組の推進に当たっては、国公立・私立学校や関係施設等との十分な連携が重要
- ・ 人づくりの方向性や課題認識を共有し、一体となって取り組むため、全県的な推進組織の設置を検討
- ・ 取組の定期的な検証・見直しを行い、適宜外部の知見も活用しながら、総合的な進行管理を実施